

2013年度阪神共同福祉会法人事業報告

①地域福祉の担い手となるように、まだまだ不足ですが、出来るだけ地域に出ていき交流の場を作ってきました。園田苑の高齢者と保育の子どもたちの交流や子どもまつり、夏まつり、水辺まつり、雪まつり、地域の老人会との交流、愛逢の家への訪問などをしてきました。

また、法人職員全体研修を「憲法改正について」「腰痛体操」の2回行いました。憲法改正については、福祉会の第三者委員をしていただいている在間弁護士に講演をしていただき、腰痛体操は、医療生協小中島診療所の楊川先生にお願いしました。

引き続き法人通信『かがやき』は年4回発行することができました。

②保育は、今年度は浜保育園獲得に全力を注ぎました。4月に書類作成で締め切り期限が短く、事務長、三園の園長、設計士とで提出をしました。8月によりやく書類審査の通過決定があり、末にプレゼンテーションを選定委員と保護者向けに2回行いました。9月に面接審査があり、15日尼崎市長より、移管決定通知がきました。そこから人財確保のため、三園で体制を整え全力を尽くし、12月には23名の職員が揃いました。1月から3ヶ月の共同保育を、現保育園と同時進行で行いました。みんなで力を合わせて、地域に広げた4園目の保育園を獲得した1年でした。

③南清水保育園の一時保育は順調に地域に広がり、利用者が増えてきました。善法寺の子育て支援は、定員の0歳児は1クラス10世帯、1歳以上児は2クラスの20世帯が1年間常に満杯状態でした。自由参加のお茶会や遊びの日の参加も定着してきました。

④介護部門は、25周年を迎え、地域の皆さんへの感謝をこめて「三好春樹講演会」「25周年記念式典」「沢知恵コンサート」を行いました。どのイベントにもたくさんの方々に参加をいただき、職員たちにもおおいに励みになりました。

⑤介護部門では、各セクションでいろいろな取り組みを行いました。特養はユニット的ケア・逆ホームは、一定の成果を得ることが出来ました。デイでのお泊りデイは、職員の頑張りで継続していますが、今後の継続については、次年度の課題となります。ホームヘルプの24時間ホームヘルプは次年度以降も継続していきます。

戸内『野土香』の利用者の拡大には至りませんでした。

⑥常務理事会、本部事務局との会議は、理事会開催前に合わせ持つことができました。

なお、介護部門、保育部門ともに施設長、事務長を中心に責任者会議(月2回)主任会議(月1回)、園長会議(月1回)園長主任会議(隔月)をほぼ毎月行い、日常業務での管理指導的任務を果たしてきました。

⑦管理職として必要な「報連相研修」「コーチング研修」等に参加しました。今後も、スキルアップに努めます。

⑧今年度は、介護部門の職員4名(2組)が、東北気仙沼の仮設住宅に行き、精神的支援の援助を行いました。

⑨被災を想定した防災訓練は、消防訓練に留まりました。今後につなげていくために、見直しを行い「防災委員会」を設置しました。